もみの木やまのくまくん

とみながまい

もみの木やまは、雪でまっしろです。
くまくんは、おうちでぐっすりねむっていました。
トントントン トントントン
「こんな雪の中、いったいだれだろう?」
くまくんは、眠い目をこすりながら
戸をあけました。
「くまくん くまくん おこしてごめん」
それは、一足の長ぐつでした。
左の長ぐつが、いいました。
「きみのたすけがいるんだ」
右の長ぐつが、いいました。
「ぼくをはいて、西の森にむかって」
くまくんが、長ぐつに足を入れると
「思ったとおりだ。ぴったり!!」
長ぐつたちは、嬉しそうにいいました。
「あたたかい長ぐつだな。さあ、いこう」
くまくんは西の森へむかいました。

くるみが丘に出ると、

スルスルシュルン
左の手ぶくろが、雪の上をすべりおりてきました。
「くまくん、ぼくを手にはめて」
「まって、まって、わたしも 手にはめて」
スルスルシュルン
右の手ぶくろも、すべりおりてきました。
くまくんが、手ぶくろをはめると
「思ったとおりだ。ぴったり!!」
手ぶくろたちは、嬉しそうにいいました。
「あたたかい手ぶくろだな。さあ、いこう」

くまくんが、つきみ池のほとりまで来ると、
パタパタパタ パタパタパタ
赤いズボンが、空をとんできました。
ズボンは、くまくんの前におりたつといいました。
「くまくん、ぼくをはいて」
くまくんがズボンをはくと
「思ったとおりだ。ぴったり!!」
ズボンは、嬉しそうにいいました。
「あたたかいズボンだな。さあ、いこう」

西の森につきました。すると、
「くまくん とまって」
と声がしました。くまくんがたちどまると
ヒューーン ストン!
もみの木から赤いぼうしがとびおりて、あたまにかぶさりました。
「思ったとおりだ。ぴったり!!」
ぼうしは、嬉しそうにいいました。
「あたたかいぼうしだな。さあ、いこう」
「こっち こっち」
ぼうしの白いポンポンが、くまくんをひっぱっていきました。

しばらく行くと、
「おーい、こっちだ!」
見ると、えんとつのある家の前で、
赤いうわぎが手をあげて呼んでいました。
「くまくん、ぼくをきて」
くまくんが、赤いうわぎを着ると……
ギギ ギギギー
家の扉がひらきました。
「思ったとおりだ! 長ぐつも、手ぶくろも、ズボンも、

ぼうしも、うわぎも、くまくんにぴったりじゃないか」
それは、白いヒゲのおじいさんでした。
おじいさんは、足をケガしてつえをついていました。
「私のなまえは、サンタクロース。今夜はクリスマスだというのに、歩けないんだ。くまくん、わたしのかわりに、子どもたちにプレゼントをくばってくれないかな」
くまくんは、びっくりしました。
「そんなたいせつな仕事、ぼくにできるかな……」
「きみは、ぐっすりねむっていたのにここまできてくれた。サンタクロースの仕事は、しんせつなくまくんにぴったりさ」
おじいさんは、そういうとはさみを出して
「さて、もうひとつ」
チョキ チョキ チョキン
じぶんのヒゲをきって、くまくんのかおにつけました。
「ぴったりだ! きみは、りっぱなサンタクロースだよ」

リンリンリン リンリンリン
くまくんのサンタクロースが、子どもたちのところへ出発しました。

(おしまい)

絵・アヤ井アキコ